ロボット科の1年生課程にスマートテクノロジー（用語参照）を取り入れた授業を始める。ハードウエアとソフトウエアを組み合わせ、センサーで動くプログラムの構築やネットワーク制御などに関する授業を行う。ITを使って家庭の消費電力を制御するスマートハウスなど次世代産業に対応できる人材の育成を狙う。

横浜システム工学院専門学校が始める授業で教えるのは、プログラム開発や組み込み機器を製作して機器を制御する。例えば、熱や明るさを感じ取って照明やエアコンを制御する技術などに使われている。

【用語】スマートテクノロジー＝ITを活用してエネルギーを効率的に利用する技術。センサーとネットワークを駆使し

高齢者監視用システム レンタルの販路拡大

エイム

【名古屋】エイム（愛知県豊橋市、平塚元久社長、0532・44・1522）は、一人暮らしの高齢者の住居内での行動を遠方からほぼリアルタイムで把握できる高齢者監視用システム「見てるネット」のレンタル販売を本格化する。今夏をめどにセキュリティー機器メーカーや高齢者向けサービス会社を通じて新たにレンタルを始める計画で、自治体や高齢者への販路を拡大する。

同システムはセンサーや携帯電話のパケット通信網を利用した発信装置などで構成。人を検知するセンサーを住居内に複数設置し、どこのセンサーが何時何分何秒に反応したかを、インターネットを通じて遠方から確認できる。レンタル価格はセンサー3個設置の場合で月額8000円。

従来、同社は地元の自治体を中心に営業活動してきたが、今後はセキュリティー機器メーカーを通じて全国の自治体に売り込む方針。また買い物代行などの高齢者向けサービス会社も活用し、一人暮らしの高齢者と遠隔地に住む家族に勧める。

同システムはエイムが販売する工場などの設備監視システムを応用して開発。こうした設備関連の遠隔監視システムを含めて2012年7月期に売上高3億円を目指す。

訪中使節団派遣を延期

日商

日本商工会議所は中小企業の中国進出・販路開拓のため3月20日から23日まで3泊4日の日程で計画していた訪中国使節団の派遣を延期した。東日本大震災の復興の状況を勘案しつつ、訪問時期をあらためて探る。

中国は製造コストの上昇な

企業は人なり

「1級技能士」取得が義務

菊地歯車

「高校を卒業して入社した従業員は、入社後10年以内に国家技能士1級を取得しなければならない」。これは自動車や建設機械の歯車の製作を手がける菊地歯車（栃木県足利市、菊地義典社長、0284・71・4315）が人材育成で伝統的に設けている基準だ。

「義務ではないが先輩に教わったり、休日に出社して機械を操作したりする姿が目立つ。試験前になると皆ピリピリするが、これも昔からの伝統」と菊地社長は笑う。

狙いは資格の取得を通じ、仕事に対する自発的な姿勢を育成することだ。目標を与えることで突き進み、クリアすることが自信につながる。それを業務に生かす。菊地社長は「社内の仲間同士で鍛錬する環境も整ってきており、大きな手応えを感じている」と話す。

先輩に教わったり、休日に出社して機械を操作したりする姿が目立つ

仕事への自発性 育てる

同社にはこうした基準を突破してきた多くの技能者が現場で活躍している。最高クラスの特級技能士は7人。1級技能士は55人で、このうちホブ盤作業の技能士は38人。ホブ盤は同社で最も付加価値を生み出し、収益源となる加工技術。一社で約40人の資格取得者をかかえるのは歯車業界ではトップクラスだという。

中小企業にとって人材は財務諸表には表れない資産。大企業とは異なり資本力が十分でなく、人に対する依存が大きいだけにその能力を伸ばす環境づくりがカギを握る。

近年は加工精度をはじめ、顧客から要求されるレベルが高度化しており、仕事が人を育てる面があるという。これに加え、自社で能力を伸ばそうと取り組んでいるのが若手を主体とした5S（整理・清掃・整頓・清潔・しつけ）活動だ。

同社では〝5Sパトロール活動〟と題し、月に1回、部署ごとに改善が遅れている部分を洗い出す活動を実践している。発見した箇所は職場に写真で張り出すため、一目で全員に分かる。

これまでは各職場の中堅クラスがリーダーとなって取り組んできた。だが、社内で5Sに対する一定の理解が浸透してきたことから、思い切って若手に任せる体制に変更した。若手のリーダーらは知恵を絞り、マンネリ化を避け、社員の能力を発揮しやすい職場にするにはどうすればいいかについて、周りのサポートも受けながら考える。こうした過程の中で、自発的な姿勢が身につく。

菊地社長は「機械とは異なり、人の〝スペック〟はあまり知れない。採用後、いかに能力を発揮してもらうかが、経営者にとっては最重要な課題となる」と強調する。

（火曜日に掲載）

モノづくり・中小